

## 5 成果と課題

### (1) コンソーシアムの成果と課題

ALネットワークの形成により、国際高等学校を拠点とし、事業連携校をはじめ、事業共同機関（大学、NPO、企業及び研究機関等）の協力を得ながら、新たな学びの形が形成されてきた。これまで、単独の高等学校が別の高等学校、大学及び企業等と個々に協定を結び、高校生に学校の教室を飛び出して、学びの場を提供することは多々あったが、本事業のように、高等学校及び連携機関が一体となり、同じ目的へと向かい、ともに連携を図りながら学びの場を高校生に提供することは、これまでの奈良県に存在しなかった学びのスタイルである。事業拠点校、連携校及び連携関係機関においては、代表者だけでなく、教員や関係者、また、学びの主役である生徒間の協力関係が生まれ、新たな学びの創造へとつながりができた。さらに、本年度の本事業取組の中で、教育にかかる新たな連携協定の締結や海外交流を促進する新たな海外交流校誕生のきっかけが生まれてきたことは、本年度の取組の成果である。

また、国際高等学校が開校以来これまで取り組んできた、「グローバル探究」及び「世界の言語」授業の取組やカリキュラム開発を連携校及び県内の教員と共有し、「グローバル探究」の学びが拠点校及び連携校間で、さらに深い学びへと進化していったこと、「世界の言語」の取組及び「多様な文化や考えに触れる」意義が広く奈良県内にアナウンスされたことは、本事業のALネットワークが果たした役割の一つとすることができる。本年度は本事業の拠点校及び事業連携校の取組の成果を、「総合的な学習の時間」部会との連携により、「課題研究発表会」開催し、奈良県内のすべての高等学校と共有できたことも成果の一つととらえ、次年度も継続的に推進していきたい。

課題としては、管理機関として財政等支援だけでなく、事業の進行管理や事業推進に積極的にかかわり、文字通り「管理」する機関としての役割を果たしていく必要がある。事業共同機関の各代表者が出席する運営委員会においても、出席者から事業推進のための御助言や御指導を積極的に賜り、本事業がより力強く推進するよう委員会を活性化していきたい。また、先行事例を参考とし、これまで同事業に取り組んでこられた、他の管理機関からも積極的に情報を収集し、本県の事業推進に努めてまいりたい。

本年度、本事業における事業連携校の中にはSSH等の国の別事業を実施している学校が複数あった。党外の学校においては一度に複数の事業の取組を進めていけねばならず、それぞれの事業を担当する教員も同じ人物であることが多い。それら個々の教員の負担増大もあり、連携校の担当者が十分に本事業に参加協力できていない現状が見られた。事業連携校においても、本事業の重要性を十分御理解いただき、担当者の公務軽減等の措置を校内でとっていただくよう要請していきたい。また、探究活動の充実のための管理機関による支援が必要であると考える連携校もある。どのような支援が有効であり、本事業の活性化へつながっていくのか検討して参りたい。

## (2) 拠点校の取り組みの成果と課題

(成果)

### ・ALネットワークの形成

事業実施により、これまで奈良県に存在しなかった、事業拠点校、連携校及び連携関係機関の協力関係が生まれ、新たな学びの創造へとつながりができた。

国内では、本年度新たに1高校、2大学と協定を締結することができた。海外のネットワークについても、海外交流アドバイザーを中心に連携先を開拓し、本年度7つの教育機関とつながることができた。

### ・地域とのつながり

新設校ではあるが、「グローバル探究」のゼミ活動の中で、地域の自治会や公民館、地域のボランティアの方々などに取り組みの趣旨をご理解いただき、様々な協力を得ることができた。今後も、地域の人々とともにアクションを起こしていくことができるようにしていきたい。

### ・生徒の意識の変化

世界の言語を学ぶ中で、生徒たちの主体的な異文化理解への取組を促進することができた。

12月には、生徒会が「世界の言語のクリスマス」を企画し、5言語（中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）のネイティブ教員にそれぞれのクリスマスについて、聞き取りをして、ポスターにまとめ、学内に掲示する取組を行った。

### ・「グローバル探究」におけるチェックシートの開発

本校の6つの力のルーブリックをもとに、「グローバル探究」の振り返りに使用するチェックシートを作成した。

(課題)

### ・組織体制の整備

事業実施1年目であり、事業内容について、教員間の情報共有や役割分担が定められないまま進行した。次年度は、校務分掌を見直し、新たに研究開発部を置くことにした。校内推進体制を組織的に構築し、研究開発を充実したものにしていきたい。

### ・「グローバル探究」の開発

開発を進めている「グローバル探究」は、学校全体で取り組んでいるため、情報共有、方向性の共有が不可欠である。次年度は、確実に打ち合わせの時間が十分取れるよう、1週間の時間割に組み込むなどの方策をとっていきたい。

また、次年度より新学習指導要領が実施される。「グローバル探究」で代替する予定となっている「情報1」の学習内容をどのように関連づけていくか、シラバスの調整・検討を現在、大阪府立大学の支援を受けながら行っている。

### ・キャリア支援の充実

拠点校は開校2年目の学校で、次年度1期生が3年生となる。海外大学やその他希望する国内大学への進学に向けた支援体制を充実させていきたい。

### ・県内連携校との連携

次年度は7月にはじめて高校生国際会議を開催する予定となっている。高校生の手による高校生国際会議となるよう、高校生実行委員会を再組織し、取組を進めていきたい。

### ・高大接続によるアドバンスプレイスメントシステムの構築

システムの前提となる高大連携を今後も構築してまいりたい。